

**CASBEE神戸 ver.3**  
**レ・ジェイド須磨妙法寺駅前**

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸 ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸 ver.3/CASBEE-BD

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		<b>-</b>	<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>						<b>4.0</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.3</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>5.0</b>	0.50	<b>3.4</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2				<b>5.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能							-	<b>3.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	<b>1.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		Lr-50					-	<b>4.0</b>	0.20	
1.3 吸音							-		-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.2</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.8</b>
2.1 室温制御						<b>2.2</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能						1.0	0.38	<b>3.0</b>	1.00	
3 ゾーン別制御性							-		-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.0</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.8</b>
3.1 昼光利用						<b>4.2</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光率		昼光率:3.136%(共用部分) 3.805%(住戸部分)				<b>5.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50	
2 方位別開口							-	<b>3.0</b>	0.30	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光制御		カーテンと庇の2種類によりグレアを制御				<b>2.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.6</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00	<b>3.7</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		天井裏を含めて全面的にF☆☆☆☆の建材を使用				<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.3</b>	0.38	
1 換気量						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室面積の1/8以上					-	<b>4.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
4.3 運用管理							-		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視							-		-	
2 喫煙の制御							-		-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>						<b>4.3</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>4.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性							-		-	
2 高度情報通信設備対応		各住戸にGbitクラスのプロードバンド設備が利用可能な環境を整備					-	<b>5.0</b>	1.00	
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動円滑化誘導基準を満たす				<b>4.0</b>	1.00		-	
1.2 心理性・快適性						<b>5.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観							-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース							-		-	
3 内装計画		インテリアバース等による事前検証など				<b>5.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50	
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材の使用など				<b>4.0</b>	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		清掃用資材を保管するスペースの計画など				<b>4.0</b>	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.2</b>	0.30		-	<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.7</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準による劣化等級3を満たす				<b>5.0</b>	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:フローリング20年 壁天井:ビニルクロス貼 20年				<b>4.0</b>	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主な用途上位3種のうち、2種以上にB以上を使用し、Eは不使用				<b>5.0</b>	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>2.0</b>	0.20		-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						<b>2.0</b>	0.20		-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20		-	
5 通信・情報設備		災害時にケーブルTVなどにより災害情報が入手できるなど				<b>4.0</b>	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	1.00	<b>2.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				-	<b>2.0</b>	0.50	
1 階高のゆとり				-	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		自然・歴史を感じさせながら都会的・現代的でもある色に配慮した	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.95	<b>3.5</b>	0.50	-	-	<b>3.5</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		スタイロフォーム	3.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		押出法ポリスチレンフォーム保温板3種	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率:83%	<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドライン項目の一部を満たし、広告物照明の不採用	4.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	